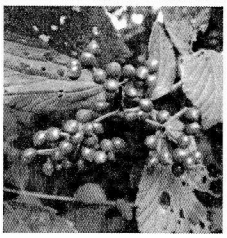
令和元年 10 月 13 日（日）

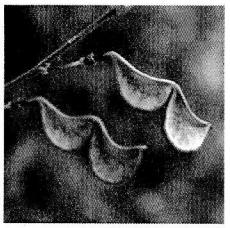
四季の森公園 自然観察会「里山の果実と種子」

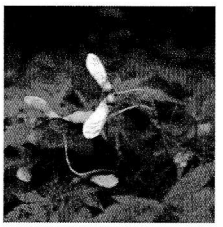
果実・種子の大きさ、色、形は様々です。その理由を考えてみましょう。

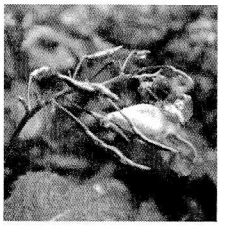
NPO 法人四季の森里山研究会　担当：上野・小野・武本・下田

今日(10/13)はこんな日	寒露・初候（10/8～13）：「鴻雁来（こうがんきたる）」（雁が飛んでくる） 誕生日の花：ダイヤモンドリリー（ヒガンバナ科）、花言葉は、「また会う日を楽しみに」「忍耐」「箱入り娘」


ガマズミ


ヌスビトハギ


イロハモミジ


ツリフネソウ

ジュズダマ

・果実と種子

被子植物（胚珠が心皮にくるまれている）が受粉すると雌しべの子房がふくらんで**果実（実）**になります。子房の中にある胚珠が成熟したものが**種子**ですので、種子は果実の中にあります。

果実の皮（果皮）が多肉質で水分を多く含むものを**液果（えきか）**あるいは多肉果、果皮が乾燥した状態になるものを**乾果（かんか）**といい、乾果には様々なタイプがあります。

裸子植物（胚珠がむき出しになっている）は果実を形成しませんが、被子植物と同様に種子のそばに食べられる部分を持つことで、動物を通じて種子を散布することができます。

・種子散布

地中に根を張っており移動することができない植物は、いろいろな方法で種子を散布します。**被食散布**（ガマズミ、ドングリなど）、**付着散布**（ヌスビトハギ、イノコズチなど）、**風散布**（アキニレ、カエデ類など）、**重力・自動散布**（クヌギ、ツリフネソウなど）、**水流散布**（ジュズダマ、シナサワグルミなど）などがあり、同じ植物で複数のタイプの散布をしているものもあります。

・どんぐり

ドングリの形は、樹種によって様々です。いずれも全体が種子のように見えますが、堅い殻（果皮）をもつ果実です。果物の食用部分となる果肉が発達しないこのような果実を**堅果（けんか）**と呼び、殻を割ると渋皮（種皮）に包まれた種子が現れます。

・「紅葉」　作詞：高野辰之、作曲：岡野貞一

秋の夕日に照る山もみじ
濃いも薄いも数ある中に
松をいろどる楓（かえで）や蔦（つた）は
山のふもとの裾模様（すそもよう）

溪（たに）の流に散り浮くもみじ
波にゆられて はなれて寄って
赤や黄色の色さまざまに
水の上にも織る錦（にしき）

★次回は 11 月１０日（日）。テーマは『色づく里山』です。是非またご参加ください。